

「かさこじぞう」

音楽詩劇 民話集より

文／
曲／板見信一
画／

J=82

6.8



1回目 休み (語り)
2回目語り入り

むかし むかし



あるところに とても まずしい おじいさんと おばーさんがすんで



いました。 たいそう びんぼうで その日 その日を やっと 暮らして



いました。 ある年の ぐれに お爺さんは



云いました。 もう お正月というのに 「モチツキ」もできんで さびしい かぎりじゃのー



ほんに なんぞ うるものでも あればのー あたりを みまわし

□



たけど なんにも ありませんでした ばーさまは 土間の



方を見ました。 すると 夏の間は 刈り取った すげが 積んでありました。



じーさま じーさま かさこ こさえて 街に売りに いったら



もちこ 買えかのう おーお それが いい そうしよう



そこでじいさまと



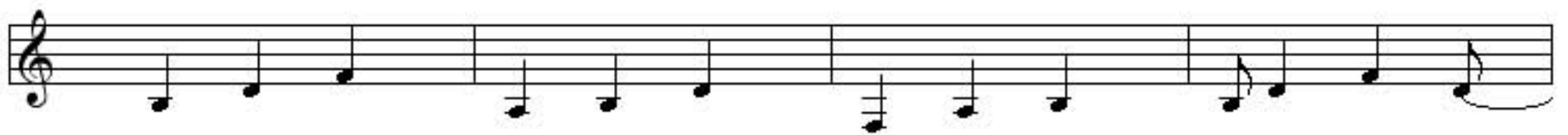
ばあさまと 土間におり むしろを 引き その上で すげをそろえ



せっせと傘を編み 始めました。ようやく 傘が 五つできると じいさまは それを



よって まちへ売りに 行く準備をしまし た。



外へ出ると雪が ふっていました。 おおーさむ おおーさむ



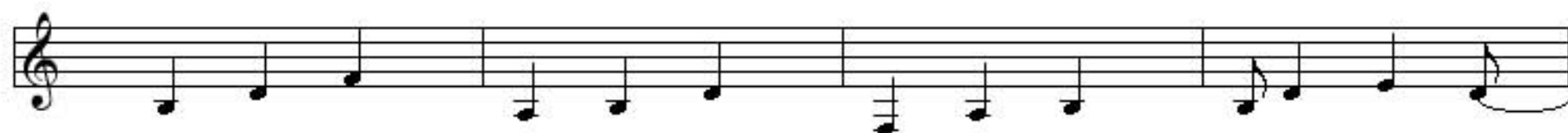
じいさまは ゆきにも めげず町へ でかけて



いきました。 やがて



おじいさんは むらはずれまで やって来ました。



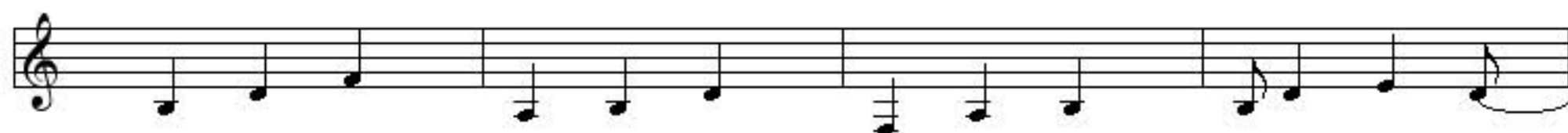
そこにたっている おじぞうさまも すっかり ゆきを かぶって いました。



やーれ おじぞうさまも さむそうじゃのー



おじいさまは おじぞう さまの あたまや かたに ふり つもった ゆきを



ひとつ ひとつ ていねいに はらいのけて 上げました。



目

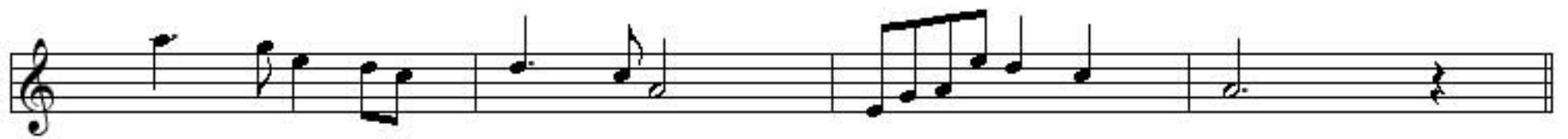




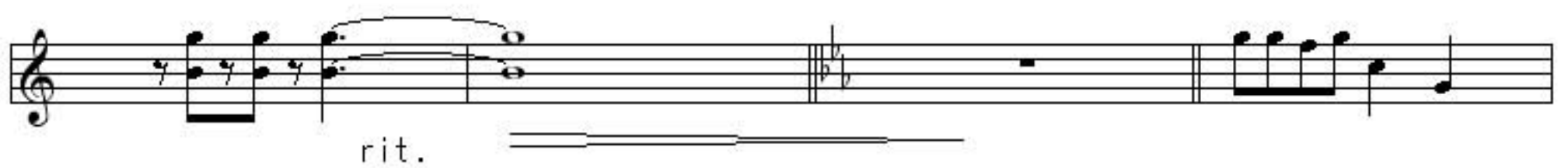
そして おじいさんは てをあわせ 「ことし1年

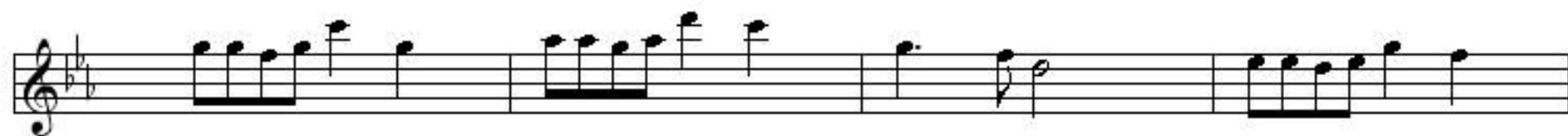


有難うございました 又 良い年がむかえ られますようにお願い



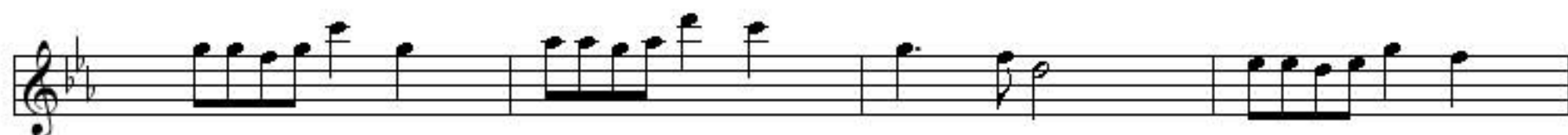
します」とおいのり しました。こういって 又 てくてく歩き 出しました。





61

まちは としの



くれで いちが たっていて 正月もんの 人で おお賑わいでした。



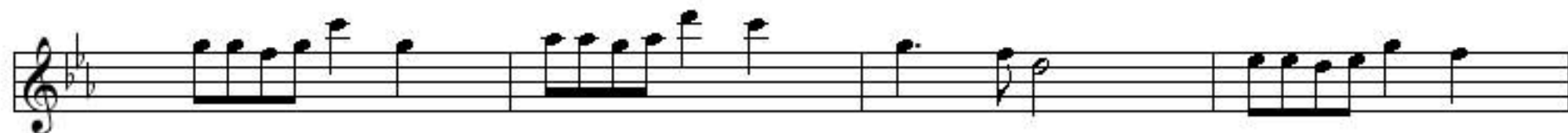
笠は いらんかのー 笠は いらんかのー と お爺さんは声を 張り上げて見ましたが



人々は ただ 忙し そうに 通り過ぎる だけで 笠には見向きも しません



やがてひも くれて 来ました。 お爺さんは 仕方がなく 家へ 帰ることにしまし



た。 暗い雪道を トボトボ 歩くうちに

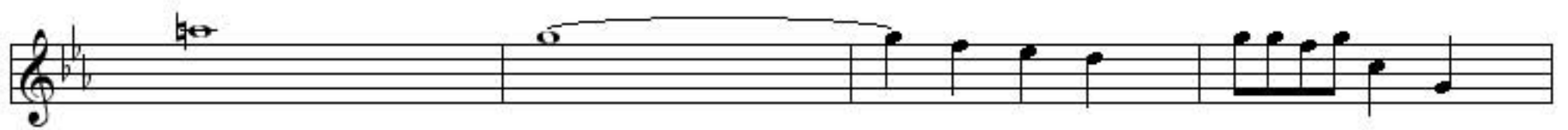


おじいさんは お地藏様の前に立っていました。

おお 寒そうじゃのー



そうじゃ わしが 笠をもって帰っても 仕方がない



そう云うと お爺さんは お地藏様の雪を払いのけ ひとつ ひとつ

売れ残った 笠を



お地藏様の 頭に かぶせて 上げたのです。

所が お地藏様は



六つ 笠は五つ

「はて? どうしたものじやー

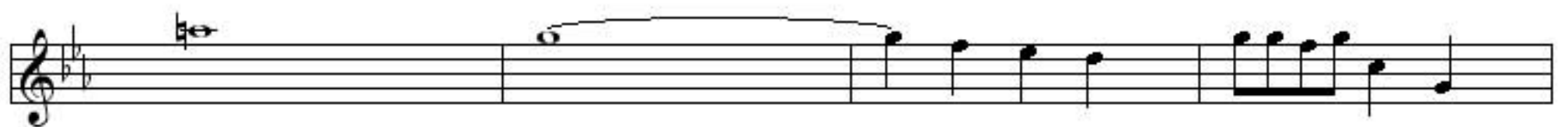
しばらくして お爺さんは



自分が ほほかむり していた 手ぬぐいを はずし 最後の

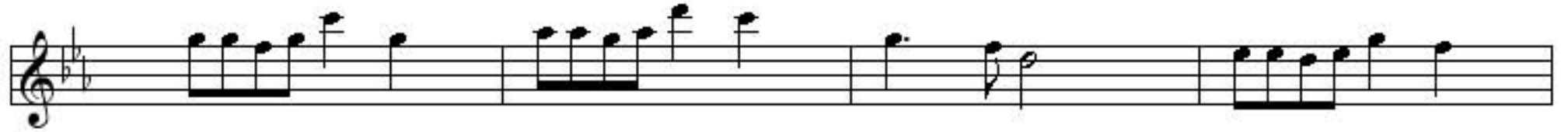
お地藏様に

☐



かぶせてあげました。

笠と手ぬぐいを



かぶった お地藏様たちはなんだか とても暖か そうに 見えました。

もうこれで大丈夫



もう これで
お爺さんは 安心して 家へ帰り 急ぎまし た。



☐



お婆さん 今 帰ったよ



まあまあ お帰りなさい さぞ 寒かった でしょう と

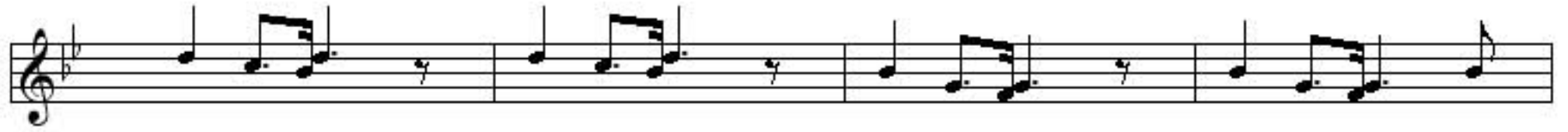


いそいそと でむかえ くれました。 笠は 売れたか の



それが サッパリ 売れんでのー

爺様は 訳を



お婆様に

話しました。

すると お婆様は

それは 良い事を

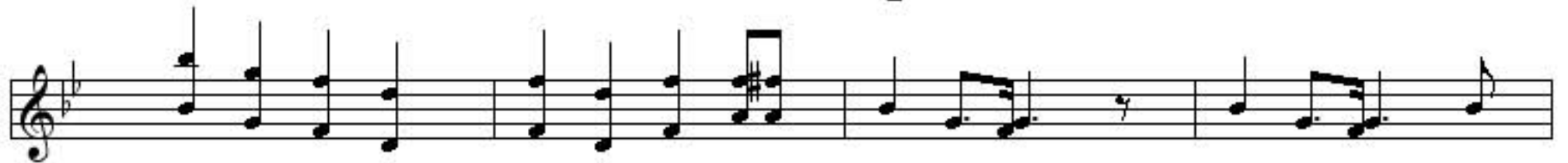


なさいました

さぞ お地蔵様も

きっと 喜んで

いる事でしょう



お婆様は たいそう

お爺様をほめました。

さあ さあ おじい

さま 寒かったろー



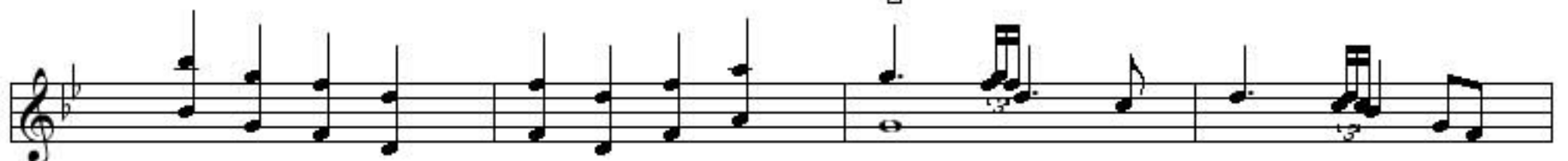
いろりに あたってくださいねいさまは いろりに おおい かぶさるように 冷えたからだを



暖めました。

ゆれやれ 今年も

モチコ 無しの年越だ



モチツキの 夢でも

みようかなー

おばあさんも



ホホホと笑って それから ふたりは すやすやと 眠りに 付きました。



エイヤサ ジョイヤサ
☐



エイヤサ ジョイヤサ エイヤサ ジョイヤサ 真夜中になにやら



ふしぎな 音が 聞こえて来ました。 ばあさま 今ごろ 誰じゃやろ



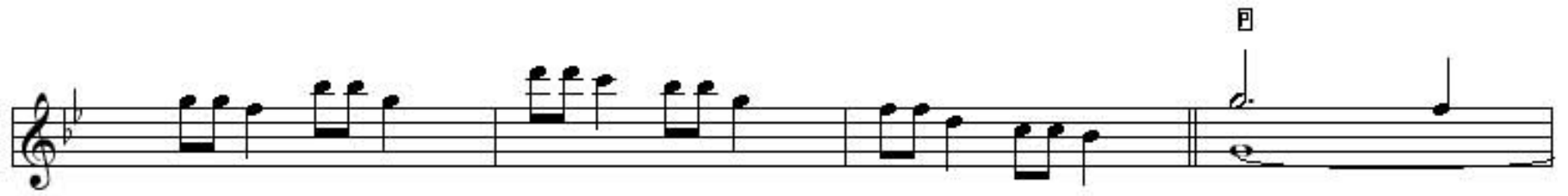
エイヤサ ジョイヤサ エイヤサ ジョイヤサ 耳を すまして 聞くと



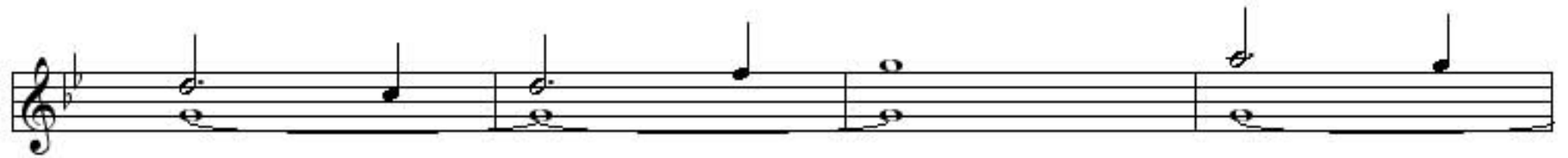
かけ声を かけながら だんだん じい様宅に 近づいて来ます 雪の



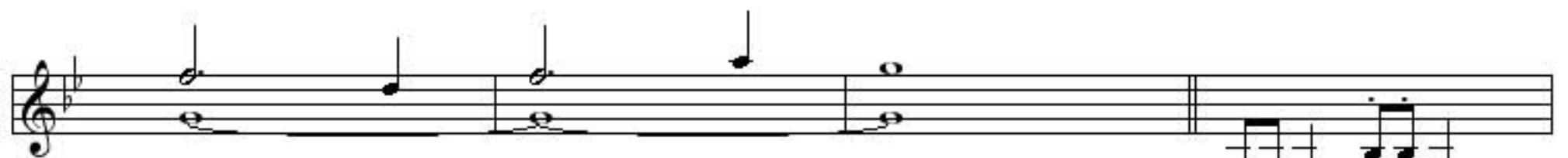
ふる夜中のこと じい様と ばあ様は 顔を見あわせましたが 音が



家の前で 止まった のには ビックリ しました。



はて 今ごろ だれじゃろ じい様とばあ様で 戸をそっとあけて



玄関外を 見回してみました



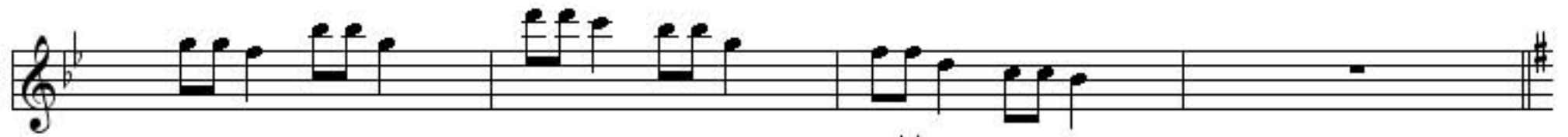
f じい様とばあ様



が見たのは 傘子をかぶった 五つの地藏様と てぬぐいを かぶった



お地藏様が エイヤサ ジョイヤサ エイヤサ ジョイヤサ エイヤサ ジョイヤサ



と 云いながら 帰っていく *rit.* ところでした

☐



お地蔵様の 後姿をみおくり ながら あたりを



見渡して じい様 ばあ様は ビックリ しました。 軒下には



米のモチ 粟の モチが 置いてあり その他にも 味噌ダル、ニンジン



ゴボウ、ダイコン が入った カマス お飾りのかど松が 置いてありました。

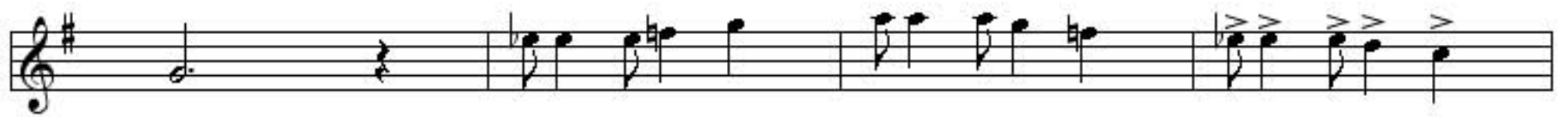


じい様 これは大変じゃ きっと お地藏様が お爺様に お礼に

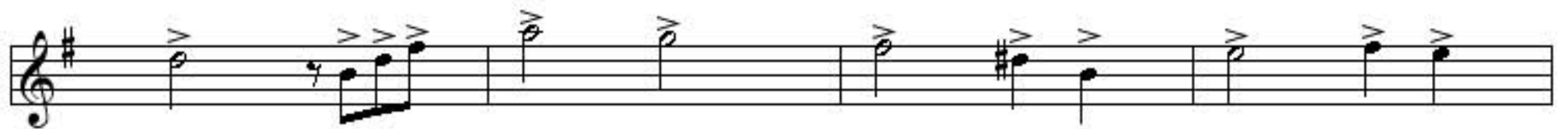


見えたのじゃ お爺さんと お婆さんは お地藏さんから

☐



頂いた食べ物で お正月の 御馳走を タップリ 作りました 婆さんや



「美味しいのう」 本当に お地藏 様の おかげで 良い年が 迎えられ



ました。 おしまい



rit.

